



写真-2.4.6 消火系埋設配管の地上化の復旧状況
(東電提供)



写真-2.4.7 消火系埋設配管の架空化の復旧状況
(東電提供)

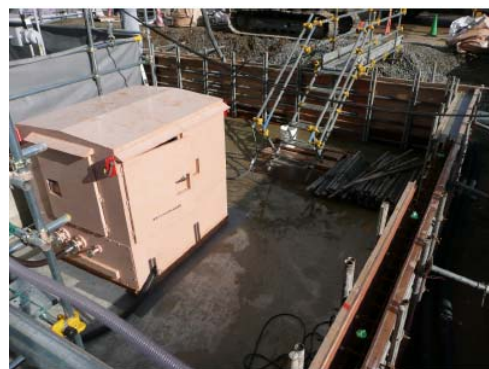


写真-2.4.8 防火水槽の埋設配置状況(手前の砂利部)
(東電提供)

(5) 3号機所内変圧器(3B)二次側母線接続ダクトの不等沈下

火災発生の原因となった3号機所内変圧器(3B)二次側母線接続ダクトの不等沈下については、二次側母線接続ダクト部の基礎を変圧器基礎と同様の杭基礎(写真-2.4.9)とし、さらに、両基礎の一体化をはかる構造に改良したとの説明を受けた。現地調査をした時点では、既に新製の所内変圧器本体が据え付けられ、周囲の延焼防止用防火壁も新製されていた(2.3章の電気設備関連機器の修復状況を参照)。

写真-2.4.9 二次側母線接続ダクト部の変圧器杭基礎周辺 (東電提供)



(6) No. 4ろ過水タンクの側板座屈

地震により、タンク側板低部に座屈が生じた事象であるが、この原因はタンク下部が固定金具（ブラケット）で固定されていたため、地震動と内部の水荷重によって、取り付け部に過大な力がかかり座屈したものである。座屈部については、試料として材料検査を行い今後の参考にする予定とのこと(写真-2.4.11)。

対策としては、タンクをジャッキアップし、座屈した側板を切り取り、厚みを増した側板としている。この時あわせて底板も取り替えているとのこと(写真-2.4.10)。

また座屈の原因であったブラケットは、タンク使用中は固定しないような改造が行われていた(写真-2.4.12)。

No. 2, 3のろ過水タンクは、水位面に相当するタンク上部に地震動の水撃作用によると思われるダイヤモンドカット模様が見られているので、今後修理予定であるとのこと。



写真-2.4.10. 修復されたNo. 4ろ過水タンク（東電提供）



写真-2.4.11 座屈部の側板試料(東電提供)

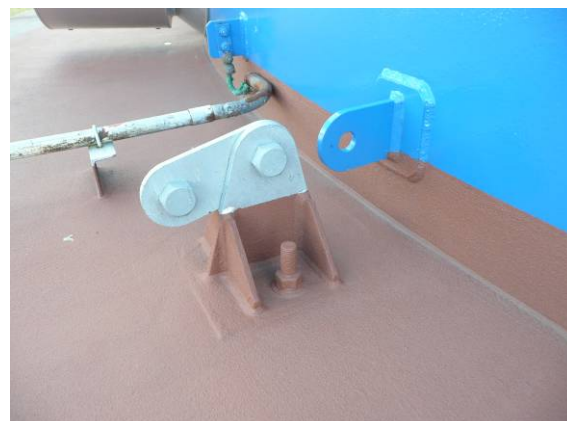


写真-2.4.12 固定ブラケットの取り外し(東電提供)

(7) 50万ボルトOFケーブル洞道の損傷

地下のケーブル洞道内に敷設されている1~7号機の50万V電力ケーブル（OFケーブル）について点検を実施したところ、一部のケーブルに地震によると思われる傷や、へこみ及び蛇行が見られたので、1~5号機はCVケーブルに取替え、6、7号機については補修を行い再使用するとのこと。また、5~7号機共用のケーブル洞道が狭いため、50万

V電力ケーブル取替えにあわせ、洞道を新設する予定とのこと(図-2.4.1)。
 新設洞道については今後かなり大掛かりな工事が予定され、既にシールド工法による準備作業が行われていた。

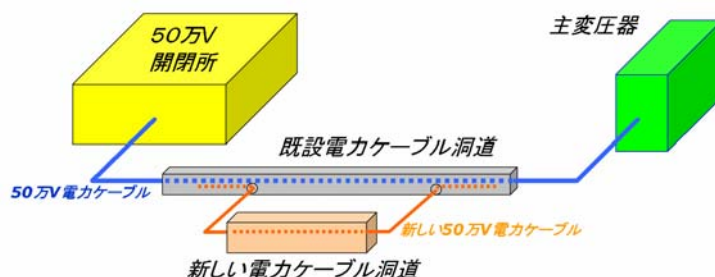


図-2.4.1 電力ケーブル洞道の新設(東電提供)

(8) 循環水配管の変形、及び取水路、放水路のひび割れ

これは、前回調査後に確認された事象であるが、循環水配管の点検結果は次のとおりである。(写真-2.4.4)

- ・1号機から4号機の放水管及び5号機の取水管に地震時の地盤変位が原因と考えられる変形が確認された。
- ・6号機及び7号機の循環水配管には変形が確認されなかった。
- ・変形は2号機(取水管)で最大62mmであるが、機能上の問題はない。

また、7号機非常用取水路(補機冷却用海水取水路)の点検結果は次のとおりである。

- ・一部にひび割れが見られたが構造的に問題となる損傷ではないことが確認された。
- ・一部耐震ジョイントにわずかな変位が見られたが、取水機能に影響を及ぼすものではないと確認された。

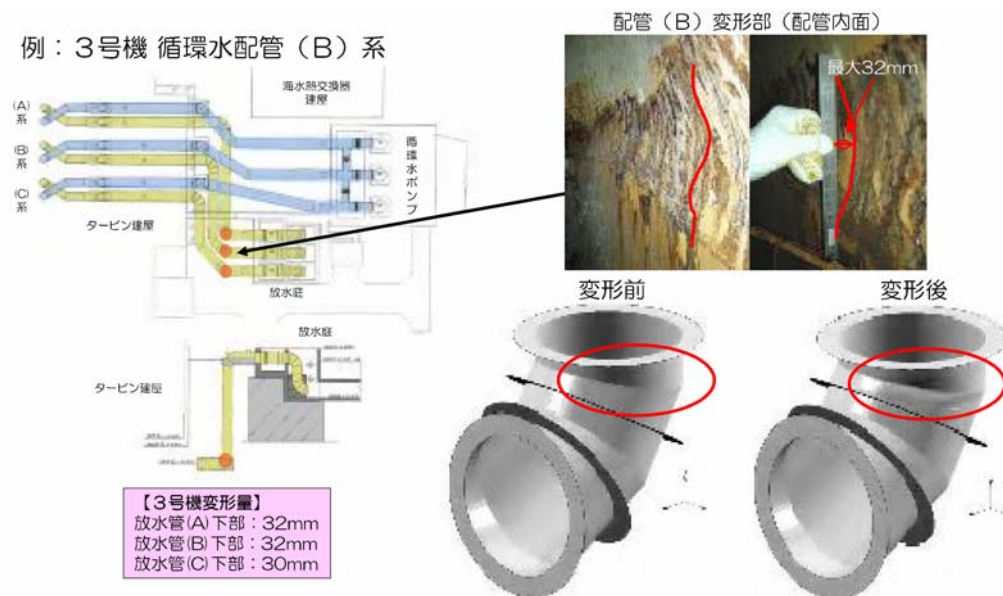


写真-2.4.4 循環水配管の変形状況(3号機の例)(東電提供)